

100歳以上 6万5692人

国内の100歳以上の高齢者が「老人の日」の15日時点で6万5692人になる見通しとなった。1971年から46年連続で過去最多を更新。厚生労働省が13日に公表した。政府は長寿の表彰として年度内に100歳となる人に純銀製の杯を贈ってきたが、財政難で今回から銀めっきの杯に変更する。

100歳以上は昨年の同時期より4124人増え、女性が87・6%を占めた。都道府県別では、人口10万人あたりで最も多いのは島根の96・25人で、最少は埼玉の30・97人。最高齢は鹿児島県喜界町の田島ナビさんの116歳で、男性では東京都大田区の吉田正光さんの112歳

46年連続更新 銀杯、財政難でめっきに

となる。

表彰制度が始まった63年は、100歳以上の153人を表彰した。その後、高齢者が増えて100歳を迎える人に限定。今回の対象者は昨年より1368人多い3万1747人になる。

毎年、お祝い状と直径約9センチの純銀製の銀杯を贈ってきたが、昨年、税金の無駄遣いを点検する「行政事業レビュー」で銀杯の廃止を求められた。しかし、厚労省は「心待ちにしている人もいる」として、銀杯を銅とニッケル、亜鉛の合金である「洋銀」に銀めっきをしたものに変えて存続を決定。費用は1個7600円から半額になった。

(水戸部八美)